



氏名 山西 真理  
 学校名 北海道室蘭養護学校  
 学年 高等部2学年(24人)  
 ※本時は8人  
 実施教科(領域) 総合的な探求の時間

関連するSDGs



【実施概要】

1. 単元名(活動名)： 違いがあって、イーネ！！
2. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：
  - ・日本とモンゴルの衣食住・伝統文化について、共通点や違いがあることを知る。
  - ・日本とモンゴル双方ともに、多様な伝統文化があり、大切にしていることを知る。
  - ・自分と他者の共通点や違いを知り、多種多様な人がいることや様々な考えがあって良いことを感じる。

3. 単元の評価規準	①知識及び技能	・日本とモンゴルの衣食住や伝統文化の共通点や違いを知る。
	②思考力、判断力、表現力	・日本やモンゴルの文化について、自ら考えとともに他者の考えや意見について触れる。 ・人や自然とのつながりを大切にする考えを持つ。
	③主体的に学習に取り組む態度	・感じたことや考えたことを他者に伝える。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>・モンゴル研修で、モンゴルの衣食住や伝統文化に、北海道のアイヌ文化との共通点が多くあると感じた。また、MON-SHEP 事業やトルゴイト地域を訪問・見学し、干ばつの影響で作物の栽培が難しい環境下でも、野菜農家が自給自足から始めた取組みを、失敗を繰り返し、試行錯誤しながら商品作物の生産へと発展させたことを知った。その過程のなかには、自然との共存を大切にし、持続可能な未来を考えた農業の必要性や目的の共有、農家自身の気付きを得るための市場調査の機会、農家への技術研修などがあり、周囲の人の力を得て、必要な情報と技術を習得しながら、今の農業の形を作り上げてきたのだと感じた。人と出会い、相手の考えに耳を傾け、尊重したことで、彼ら自身が目の前の現状と向き合い、より良い未来への気付きになったようだ。またトルゴイト地域では、貧困家庭への家族支援として、地域の子どもの生活状況を考え、サマーキャンプを実施し、子どもたちは日本の文化や遊びに目を輝かせて取り組んでいた。また、障がいのある子どもたちには、学びの場として訪問指導を行うなど人の支援や、つながりがあってできていることだと感じた。こうしたことから本校の高等部の生徒は、宿泊研修における白老町にあるウポポイ（民族共生象徴空間）の見学や他教科において、アイヌ文化について学習する機会を設定していることもあり、モンゴル国の衣食住や伝統文化に興味関心をもちやすいのではないかと考える。また、人や自然との繋がりを大切にする考えを本生徒たちが感じ、考えることで、他者を大切にする気持ちや自分たちの未来の生活に活かせるのではないかと考える。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>・単元の1,2校時では、日本とモンゴルの衣食住や伝統文化について実際に触れたり、聞いて</p>	

	<p>たりする体験を行うことで、子どもたちは、五感から感じ、興味関心を高め、それぞれの共通点や違いに気付くのではないかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4校時では、体験で感じたことや考えたことを友達と意見交流をしながら振り返った後に、カードワークに取り組むことで、自分事として考える場を与える。また、カードワークを2回行うことで、自分の考えと他者の意見との比較となり、自分の考えに変化が現れるのではないかと考える。</li> <li>・5～8校時については、自分が学んだことや感じたことを他者に自分の言葉で伝える体験ブースを設定することで、学びを深め、より自分事として捉えることができるのではないかと考えた。</li> </ul> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校高等部生徒は、男子16名女子8名の計24名の集団である。障がいの程度も様々で、ベッドで横になって学習する生徒や集中力が続かず離席、他の物や人が気になることが多くなる生徒、言語理解ができ、受け答えができる生徒など子どもたちの実態差は大きい。しかし、昨年度から一緒に学習していくなかで、生徒同士の関わりが増え、互いを尊重し、認め合い、助け合う姿が多く見えてきている。</li> <li>・また、生徒たちは、総合的な探究の時間で年に1、2回、ALT（外国語指導助手）を招き、簡単な自己紹介やビンゴゲームを通して、外国語や文化に触れる学習を行っている。自国の学びとしては、白老町にあるウポポイ（民族共生象徴空間）に見学に行ったり、美術科では、アイヌ文様の切り絵作りを行ったりして、アイヌ文化についても触れているものの、単発的な学習となり、国際理解教育の経験が少ないことが現状である。</li> </ul> <p><b>【指導観】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本生徒たちは、実践的な体験や経験などが少なく、自分の言動に自信がもてず、受動的になることが多い。また、間違いや失敗することに対し、不安に思うことが多く、消極的になってしまう。体験やカードワークを通して、異国や異文化に興味関心をもち、感じたことを言葉に出して友達や他者と交流することで、他者を尊重する気持ちや相手に認められる達成感を味わい、自分の考えを相手に伝える勇気が湧く時間になればと考える。こうした人とのつながりが生徒たちの力となり、成長の糧となると考える。</li> </ul>
--	---

5. 単元計画（全 8時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など
1.2/ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とモンゴルの共通点や違いを感じ、考える。</li> <li>・日本とモンゴルの伝統や文化を実際に体験し、興味関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や動画を見て、モンゴルについて知る。（日本との共通点や違いを感じる。）</li> <li>・日本とモンゴルの衣食住や伝統文化コーナーを実際に体験する。</li> <li>・五感（聴覚、触覚、視覚、嗅覚、味覚）を刺激し、感じたことを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真、動画</li> </ul> <p>&lt;日本&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浴衣、ウポポイ衣装</li> <li>・ミルクティー</li> <li>・ウポポイの建物</li> <li>・ムックリ、琴 など</li> </ul> <p>&lt;モンゴル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統衣装一式</li> <li>・ミルクティー</li> <li>・ゲル（組み立て）</li> <li>・口琴、馬頭琴、ホーミーCD など</li> </ul>

3.4/ 8 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、感じたことを表現する。</li> <li>・他者の考えや意見に耳を傾け、自分の考えと比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に感じたことや学んだことを振り返りながら、カードゲームを行う。</li> <li>・カードゲームを通して、なぜそのカードを選んだのかを考え、伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カード「♪好きな物を集めよう♪」</li> <li>・カード置き用紙</li> </ul>
5.6/ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とモンゴルについて、感じたことや考えたことをより深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とモンゴルの比較をしながら、衣食住・伝統文化について調べる。</li> <li>・友達と意見交換をしながら体験ブースの準備をする。</li> <li>※体験して気になったことや感じたことについて、自ら調べ、友達と意見交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・タブレット端末</li> <li>・本時の選んだカード</li> <li>・体験時の写真</li> </ul>
7.8/ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで感じたことや考えたこと、調べたことなどを体験を通して他者に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各体験ブースを担当し、自分の考えや友達の考えを振り返りながら、自分の言葉で他者に伝える。</li> </ul> <p>【体験ブース】</p> <p>①衣 ②食 ③住 ④伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カード</li> <li>・写真</li> <li>・動画</li> <li>・体験ブース道具など</li> </ul>

<p>6. 本時の展開 (3.4/8)</p> <p>本時のねらい：</p> <p>(第1段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、感じたことを伝える。</li> <li>・他者の考えや意見に耳を傾け、自分の意見と比較する。</li> </ul> <p>(第2段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見て、聞いて、感じたことを自ら表現する。</li> <li>・他者の考えや意見を聞いて、違いを感じる。</li> </ul>			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とモンゴルの共通点や違いを振り返る。</li> <li>→ブースごとの実物を見せながら、生徒が気付いたことを答えられるようにする。</li> <li>&lt;生徒の反応&gt;</li> <li>衣：服がきれいだった。 生地が違った。</li> <li>食：ミルクティーがしょっぱかった。 味が違った。</li> <li>住：ゲルを作るのが難しかった。 天井が空いていて、雨のときどうするのか気になった。</li> <li>伝：音が似ていた。 動物の骨を使っていた。 陣取りゲームがチェスみたいだった。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を説明する。</li> <li>→自国と異国に住む人の生活を知り、どのような共通点や違いがあるのかを考える。</li> <li>→日本とモンゴルの衣食住・伝統文化に関する写真カードを使用して、ゲームをすることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が振り返れるように実物を提示しながら発問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真</li> <li>・体験で使用した実物</li> </ul>

<p>展開① (20分)</p>	<p>○いろいろな人の生活を見て、考えよう 【日本】 ①〇〇先生の衣食住・伝統文化 ②〇〇さん（アイヌの方）の衣食住・伝統文化 【モンゴル】 ③バスカさんの衣食住・伝統文化 ④チヌルさん（遊牧民）の衣食住・伝統文化</p> <p>・4つの異なる人の生活を写真を使って知る。 ・4つの生活スタイルを見比べて、気付いたことを発表する。</p>	<p>・教師の主観が入らないような言葉掛けを行う。</p> <p>・衣食住、伝統ごとに出た内容を板書する。</p>	<p>・〇〇先生 ・アイヌの方 ・モンゴルの方 ・モンゴル遊牧民</p> <p>・4人の写真資料</p>
<p>展開② (30分)</p>	<p>○好きなものを集めようゲーム ・ルールを説明する。 &lt;ルール&gt; ・最初に4枚のカードを引く。 ・一人一枚ずつカードを引く。 ・カードを見て、いる、いないを判断し、好きなカードだけを集める。 ・カードは最大4枚まで手元に置ける。 ・ジョーカーは、友達の持っているカード1枚をもらうことができる。</p> <p>・カードゲームをしよう。1回目 &lt;ゲームの流れ&gt; ①3人ペアになる。 ②ジャンケンで順番を決める。 ③一人4枚のカードを引く。 ④カード山から一人一枚取る。 ⑤カードを見て、「いる」「いない」を判断する。 い る →自分のカード置き場に置く。 いない→カードを捨てる。 ⑥次の人がカードを引く。 ⑦カード山がなくなるまで、順番に好きなカードを集める。 ・衣食住、伝統文化に色分けされていることを伝え、自分が選んだカードを見直してみる。 ・選んだカードを見返し、日本とモンゴルが混在していることに気付く。 →異国にも好きなものがあることを感じる。 <u>興味・関心</u></p> <p>・次に、手元のカードを選んだ理由をそれぞれ考える。 →美味しそうだったから。 食べたいと思ったから。 ゲルが可愛いと思ったから。 音楽が好きだから。 見てみたいと思ったから などなど</p> <p>・選んだ理由を一人一人発表する。 <u>自己理解・他者理解</u></p> <p>・1回目のシートを振り返れるように、各自タ</p>	<p>・カードは、衣（赤）食（青）住（緑）伝統文化（黄）の4つに分類する。</p> <p>【1回目】 ・生徒が自分の主観でカードを選ぶ。</p> <p>・カードを手元に置くときに、なぜそのカードを選んだのかを聞きながら行う。</p> <p>・カードに日本とモンゴルのマークがあることに気付かせる。</p> <p>・生徒の実態に応じて発問の仕方を工夫し、生徒自身が考えた言葉を引き出す。</p> <p>・他生徒の話を聞いて、どのように感じたのか言葉掛けを行う。</p> <p>・必要に応じてタブレット端末の使い</p>	<p>・ルール説明</p> <p>・ルール説明カード ・カード置き場①</p> <p>・マスキングテープで貼る。</p>

<p>展開② (20分)</p> <p>まとめ (10分)</p>	<p>タブレット端末で写真を撮る。</p> <p>○カードの中から厳選しよう。2回目 (自分の衣食住・伝統文化を考えよう) ・衣食住・伝統文化の各カテゴリーごとに自分が必要だと思うカードを一枚ずつ選ぶ。 ※体験ブースや1回目のカードワークを通して、感じたことや他者の意見を聞いたなかで自分が必要だと思うカードを選択するようになる。</p> <p>・選んだカードとカード置き場①に選んだカードを見比べて、2回目に選んだカードの理由を考える。 →日本とモンゴルを混ぜてみた。 モンゴルベースにしてみた。 興味があったから。 などなど</p> <p>・選んだ理由を一人一人発表する。 <u>自己理解・他者理解</u></p> <p>・自分たちが選んだカードと最初に提示した日本とモンゴルの4人の衣食住・伝統文化とは、それぞれ違うことを確認する。 ・全体を見比べてどう感じたか発表する。 →住む国が違っていても似ているものもあれば、選んだカードが違うように考え方が違うこともある。しかし、大切にしているものは人それぞれあり、文化を大事にしていくことを感じる。</p> <p>・次回は、自分たちで体験ブースを作るための準備をすることを伝える。</p>	<p>方を教え、写真を撮る支援をする。</p> <p><b>【2回目】</b></p> <p>・他生徒の意見を聞いた上で、カードを選ぶ。 <u>思考の変化</u></p> <p>・自分事として衣食住・伝統文化を考えてカードを集める。</p> <p>・1回目との比較ができるような表現で支援する。</p> <p>・全体が見比べられるように黒板に貼る。 ・感じたことを振り返れるように、写真やカードを見せながら言葉掛けを行う。</p>	<p>・タブレット端末</p> <p>・カード置き場②</p> <p>・両面テープ</p> <p>・カード置き場① (写真)と②</p> <p>・4人の写真資料</p> <p>・自分のカード置き場</p>
<p><b>7.評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</b></p> <p>・知識及び技能：日本とモンゴルの衣食住や伝統文化の共通点や違いを知ることができたか。</p> <p>・思考力、判断力、表現力：日本とモンゴルの文化について、自ら考え、他者の考えや意見に耳を傾けることができたか。</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度：感じたことや考えたことを他者（高等部生徒、他学部児童や教師）に伝えることができたか。</p>			

**【参考資料】**

資料および外部との連携

①登別アシリの会 衣装借用

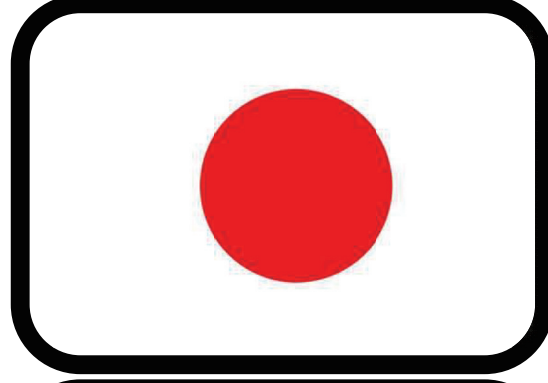
②JICA 北海道（札幌）センター 衣装およびパネル借用

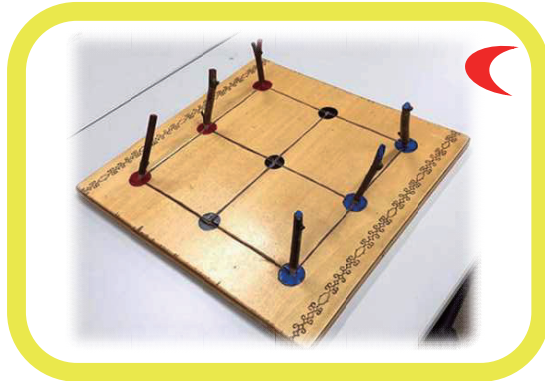
## 【自己評価】

苦勞した点	<p>モンゴルの研修で様々な情報を得て、その情報を子どもたちに知ってほしい思いからカードワークでの写真選びを行ったが、カードの量が多くなってしまった。子どもたちの集中力や情報量の精選を考え、カードの枚数を厳選したが、どのような写真を使うことで、より多くの子どもたちの言葉や気付きを引き出すことができるのかというカード選定に時間が掛かった。</p>
改善点	<p>カードワークを2回取組み、自分の考えと他者の意見を比べ、より自分事として考えられるように考慮したが、進め方によって1回目と2回目で思考の変化により気付きやすくなるのではないかと感じた。</p> <p>日本とモンゴルの体験を通して、生徒たちの気付きや感じたことを引き出すことを中心に行い、多くの意見が飛び交ったが、日本とモンゴルのつながりについて、生徒たちがより理解を深める工夫が必要だったと感じる。</p>
成果が出た点	<p>カードの情報を写真だけにすることで、それぞれの子どもたちが感じたことや気付いたことなどを表出することができた。また、グループワークにすることで、子どもたち同士の交流をもつことができた。</p>
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	<p><b>【1・2時間目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルの飲み物は、海の味だった。</li> <li>・ゲルを組み立てるのが大変だった。</li> <li>・楽器の音が違った。</li> <li>・日本とモンゴルの衣装の素材が違った。</li> </ul> <p><b>【3・4時間目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルの食べ物を食べてみたい。</li> <li>・伝統や文化は、宝物だ。</li> <li>・移動ができるゲルに住んでみたい。</li> <li>・移動できる家が便利だと思いました。住んだらどういう感じなのか体験してみたい。</li> </ul> <p><b>【5・6時間目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして、塩味が必要なのか。</li> <li>・どうしてゲルを移動するのか。</li> </ul>
授業者による自由記述	<p>本校では、本授業の国際理解教育が初めての取組みだったが、生徒たちは初めての国や学習に対して目を輝かせ、前のめりになって気付きを発表する様子が見られた。生徒たちが友達の意見に耳を傾け、受容し、自分の気持ちや考えを自信をもって発表する姿は、授業に入った教員にとっても嬉しい時間となった。生徒たちの成長に合わせて、人とのつながりを大切に気付きにつなげる学習を今後も拡げていけたらと考える。</p>
次年度以降の取組み予定	<p>本教材を他学部や他学年に授業実践を行ったり、視点を変えたり、より発展的な取組みを実践したりしたい。また、本校における国際交流の取組み方の一つとして、他機関との連携をもとに異文化や多文化共生など国際理解教育について生徒が多角的な視点で考える時間を設定できたらと考える。</p>

【♪好きなものを集めよう♪カード】







【ルール説明カード】

<ルール>



①ジャンケンで順番を決める。  
②一人4枚カードを取る。  
③カード山から一人一枚取る。  
④カードを見て、「いる」「いない」を決める。  
いる → 自分のカード置き場に置く。  
いない → カードを捨てる。  
⑤次の人がカードを引く。  
⑥カード山がなくなるまで、順番に好きなカードを集める。  
※ジョーカーは、他の人が持っているカードと交換ができるよ。

【カード置き場①】

名前： \_\_\_\_\_

しゃしん 写真

<選んだカードの理由をかいてみよう>

①

②

③

④

【カード置き場②】

名前： \_\_\_\_\_

しゃしん 写真

<選んだカードの理由をかいてみよう>

い

じゅう

しょく

でんとうぶんか

住  
伝統文化

【4 人の写真資料】

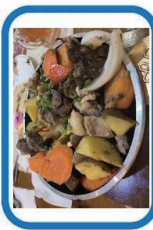
なまえ： バスカさん



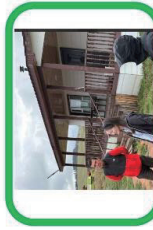
衣： 仕事で動きやすい服をきる  
 食： お肉や野菜をつかった物を食べる  
 住： 木でできた家に住む  
 伝統： 口琴という楽器を大切にしている



い 衣



し 食

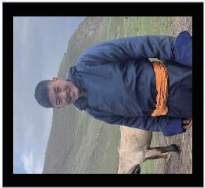


い 住

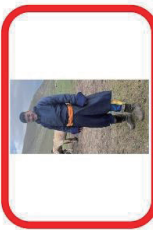


でんとうぶんか  
伝 統 文 化

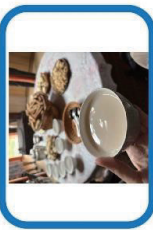
なまえ： チヌルさん



衣： 冬でもあたたかいテールを着る  
 食： 家畜の乳を使った物を食べる  
 住： ゲルという移動式の家に住む  
 伝統： 動物の骨を使ったシャガイを大切にしている



い 衣



し 食



い 住



でんとうぶんか  
伝 統 文 化

なまえ： 〇〇さん



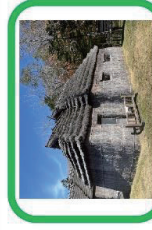
衣： 意味のある文様が描かれた服をきる  
 食： 山や川などで取れた肉や魚、野菜などを食べる  
 住： チセという自然の材料をつかった家に住む  
 伝統： ムックリという楽器を大切にしている



い 衣



し 食

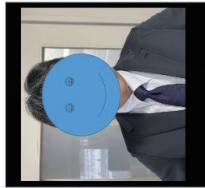


い 住

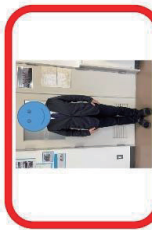


でんとうぶんか  
伝 統 文 化

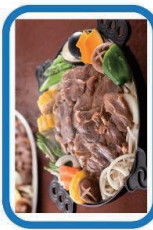
なまえ： 〇〇先生



衣： 仕事でスーツをきることが多い  
 食： お肉と野菜をつかったジンギスカン  
 住： 学校の近くにある家に住む  
 伝統： 車が大好きで大事にしている



い 衣



し 食



い 住



でんとうぶんか  
伝 統 文 化

にほん  
日本とモンゴルについて  
ちが  
～違いがあつて、イーネ！～

モンゴルって？

す  
みんなが住んでいる場所は？  
ぼしよ

日本

せかい  
世界

モンゴルって、どこにあるの？

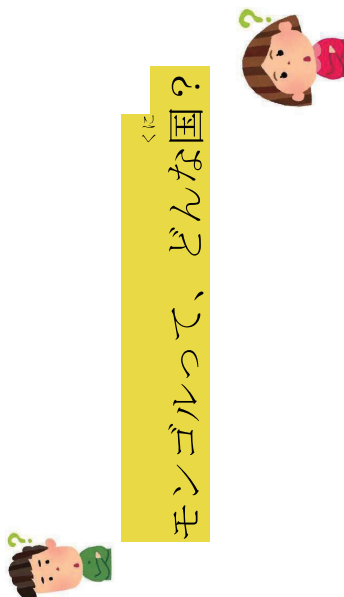
日本 (にほん)

モンゴル


言葉 (ことば) は？

日本	モンゴル
こんにちは	サイン バイン ノー (Сайн байна уу?)
ありがとう	バエルララ (баярлалаа)
さようなら	バヤルタイ (Баяртай)

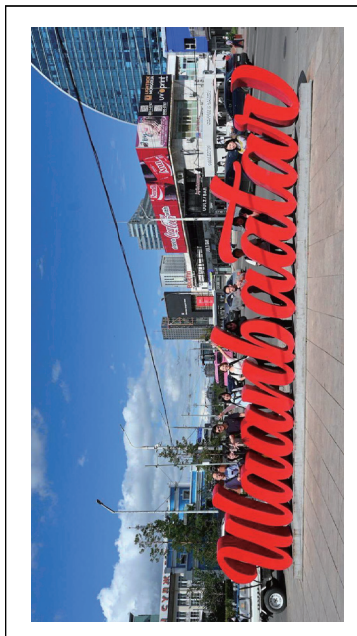
モンゴルって、どんな国？



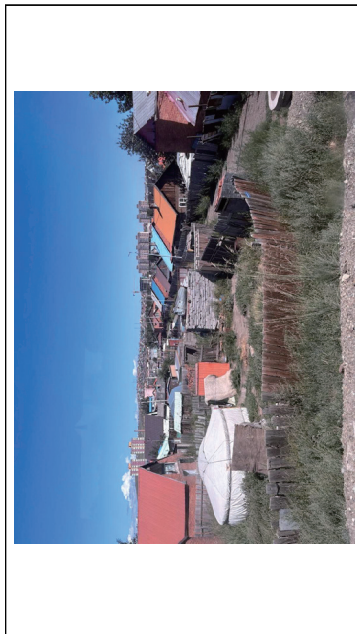
しゅと  
**首都**  
(おおきな まち)



ひろば  
スフバートル広場



しゅと すこ はな  
首都から少し離れると.....

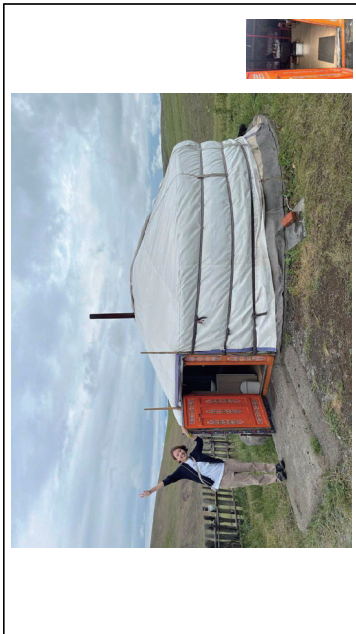


とお はな  
さらに、遠く離れると.....



★モンゴル料理を見てみよう★

りょうり み



ボーズ

ホーシヨール

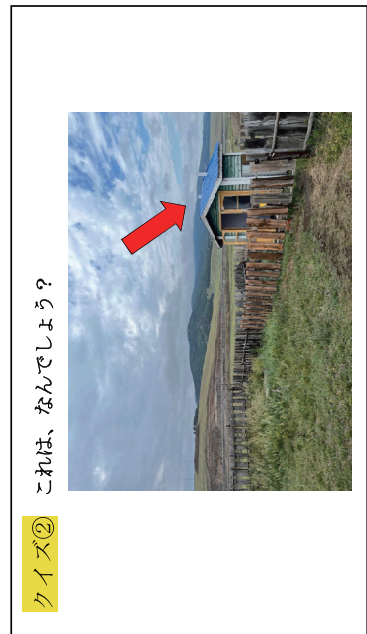
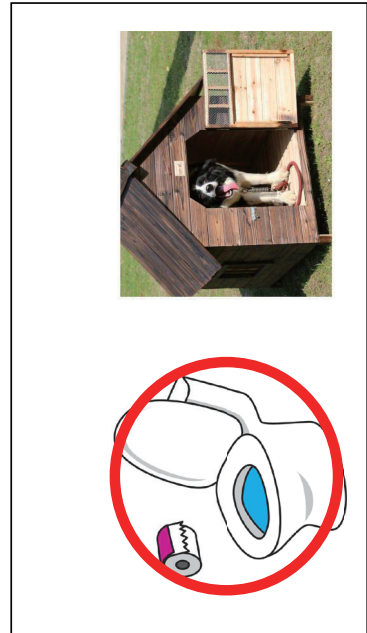
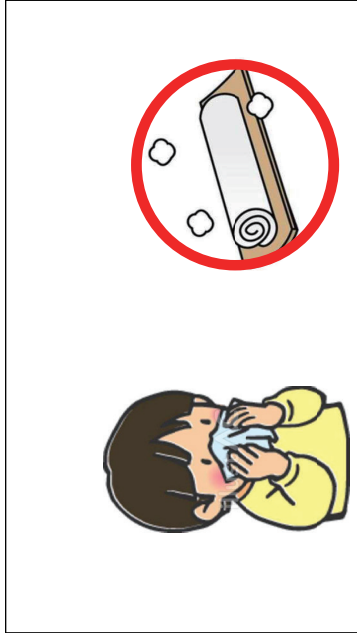
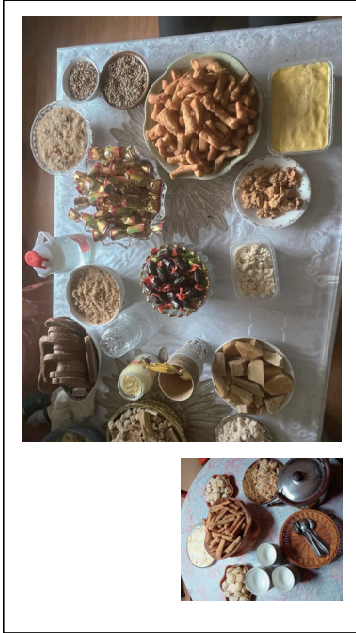
ホルホグ

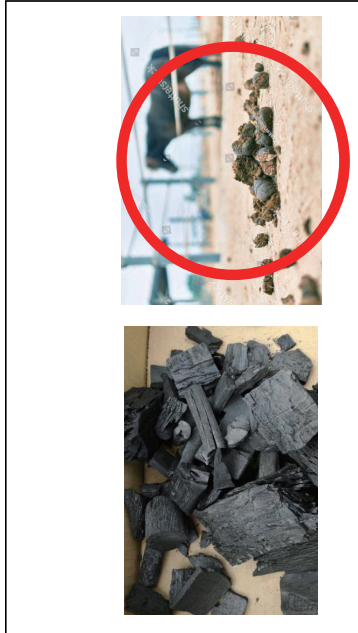
しゅと すこ はな

首都から少し離れると.....



よしのや





いしよぐしゅうろ であんどう

**★衣食住・伝統コーナーを体験しよう★**

場所：2年1組

い衣コーナー>

**【子供たちの声】**

- ・素材が違った。
- ・かっこよかった
- ・雰囲気作りたくなかった。

いしよぐしゅうろ であんどう

**★衣食住・伝統コーナーを体験しよう★**

場所：2年3組

しよく じゅうろ

モンゴルのミルクティーをのんでみよう！

ゲルをくみてみよう！！

**【子供たちの声】**

- ・目は黒くて、モンゴルはよかったです。
- ・移動できるのが、すごい。
- ・どうして家族が強いっているの？

でんどう

＜伝統コーナー＞

がっき

～モンゴルの楽器～

場所：自立活動室

がっき

～日本の楽器～

**【子供たちの声】**

- ・音が違った。
- ・ホースが弾きやすかった。
- ・琴の音がきれいだった。

でんどう

＜伝統コーナー＞

あそび

～モンゴルの遊び～

場所：2ー3

あそび

～日本の遊び～

**【子供たちの声】**

- ・ウコアアが楽しかった。
- ・シャガアの占いが何回やっても「成功しない」だった。
- ・おはじきがきれいだった。

# わたしの一枚



## 歴史と未来

### 写真を撮った場所：新モンゴル学園

新モンゴル学園で、校舎内に入る前に新モンゴル憲章の説明を受けたときの写真である。設立の趣旨を聞き、日本とモンゴルのつながりを感じるとともに、多くの方々の支援と努力を胸に刻み続けていることの凄さを感じた。「一つ、他人を助け、感謝する心から幸せが生まれることを胸に刻み、他人に幸せをもたらし、自分の幸せを創り出す。」その通りだと思うが、思うだけでなく、行動に移さなければならない。当たり前が当たり前ではないということを感じた瞬間だった。これからの未来を創り上げていくために、歴史を大切にしながら、互いを認め合い、支え合うことを念頭に置きたい。

氏名：山西 真理

学校名：北海道室蘭養護学校